

市長の青・ちまたのニュース

第24号

2020年1月19日
 日本共産党根室市委員会
 根室市宝林町4-203
 TEL 23-6023
 FAX 24-1684

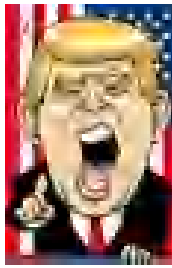
新年を迎えて思うこと

2020年、子年の新年がスタートしました。筆者も満年齢で喜寿をむかえました。この年齢になると大抵の人たちは、公の仕事を離れて悠々自適(ゆゆうじてき)と行きたいと思っているのではないのでしょうか。だが、昨今の世相は、そうした庶民のささやかな願望を許さない雰囲気は何となく広がっている実感を持ちます。少々申し訳ありませんが、私事を含めて新年に当たって思うことを書いてみました。

新年早々物騒な世相

今年の三が日は、雪や吹雪にもならず、気温こそ冷え込みましたが、穏やかなものでした。ところが、3日には、トランプ大統領がイラクでイラン革命防衛隊の司令官を無人機で殺害するニュースが飛び込んできました。正月気分が一挙に暗澹(あんたん)たる気分が一変しました。

その結果、私たちの市民生活も直撃。ガソリン、灯油が相次ぐ値上げ。ガソリンリッター当たり150円、灯油同100円を超えようかという高騰。世界の大国米、中国、ロシアなどの覇権主



義とその指導者たち。日本の首相も民主主義の根幹を崩し、大国追従で「独善」と「独裁」。世界と日本が何処へむかうのか、他人事では片づけられない…。

「泰然自若」と過ごしたい

こんな世相や騒がしい世の中にあっても、泰然自若(たいぜんじやく)として今年一年過ごしたい。私自身の偽らざる願い。自分がどうにもならないことに振り回されないでいたい。一年間常にこの気

持ちで何とか頑張りたい。しかし、私自身の性分、本当にそんな気持ちを持ち続けられないのかいまから自問自答しています。

人間の一生、人生色々といいますが、老若男女を問わず何かにつけ悩みからはのがれられないもの。だからこそ、新しい年の初めにささやかな希望や願いを持ちたいものなのです。一年の計は元日にありともいいますが、新年に当たって皆さんの心境を四文字熟語で表すとすれば、心機一転、一期一会、悠々自適、不言実行、老当益壮(らうとうえきさう)などなど、どんな「熟語」でこの一年に臨みますか？

“ひとさま”ってなんだろっ

女性のひろば 共産党中央委員会発行(1月号)の「こころの休憩室」に北海道出身の精神科医の香山リカさんの「こころ」に残る一文があったので要約して紹介します。

ある日、私とほとんど同じ年の女性が診察室にきた。最近物忘れが多くなったので「認知症の始まりでは」と心配になったというのだ。「まだまだ50代ぎりぎり、きつとだいたいぶ」と冗談めかし雰囲気をやわらげ一通り診察したところやはり認知症の兆候は全くなかった。「この年齢になると、若いときよりは記憶力は劣るでしょう。でも年相応、しんぱいはいりません」と伝えると「よかつた」と涙ぐんで言った。「私は、一人暮らしで、両親は亡くなり、きょうだいと疎遠。この先、認知症になったら突然死したりしたら、「ひとさま」に迷惑をかけてしまう。それが怖いんです」とのこと。

若いころから「自分のことは、自分で」と仕事に打ち込み、気がつくとも恋人や親友とやるほどの人もいないまま、還暦を迎える年齢に。健康や暮らしについて相談する先もない。最近「結婚し、子どもがいる人生が正解か」と最後の不安ばかりつづること。自身が医者だということを一瞬忘れ「自立した生活は立派。その人生間違いなんてない。これまで頑張ってきたし、何かのときは「ひとさま」に迷惑かけたっていいじゃないですか」と。

その女性が出た後、「ひとさま」ってなんだろっ」と考えた。何かのとき世話をしてくれる人は誰か。親戚、近所の人、それとも職場の元同僚か。そういういわゆる中間共同体の結びつきは全国各地でも弱まりつつある。「具合が悪いので食事を作りに来て」「気軽に頼める関係でなくなっている。だとするとやっぱり行政か。介護認定受けなければ、定期的誰かが世話してくれる人もいない。面倒みても簡単じゃないと思っ

60代、70代一生懸命生きてきたからその年齢になる。それなのに、高齢期を迎え不安や罪悪感で人生を楽しめない本当に理不尽な話。「ひとさま」に迷惑かけたっていいんじゃない。老後におびえる女性たちにこれからもう声をかけたい。

神志志の勝手気ままな料理教室NO.17(タックパド参照)

リンゴとカボチャとレーズのサラダ

かぼちゃ適量を一口大にし、レンジで蒸す、リンゴ皮を

むいて、いちよう切りに

ボウルにかぼちゃを入れてマッシュにし、リンゴ、レーズンを入れる

マヨネーズ適量、はちみつ少々と出来れば、ウマシオ少々

